

プロサバナ事業の進め方における「参加」に関するモザンビーク市民社会からの苦言

私たちは、

- ・長年にわたり、モザンビークにおける環境問題、土地問題について関心を寄せ、関与し、現地調査をし、政策提言をし、重要な役割を果たしてきた市民社会組織として、
- ・5年前の TICAD IV において JICA 事業に関与した協力 NGO として、
- ・数年前にプロサバナ事業について知ってから懸念を持ち、同事業を積極的に注視し、この間のプロセスをモニタリングし、ステークホルダー会議にも参加し、日本にも訪問したモザンビーク国民の団体として、

本事業の「参加」なるプロセスについて以下の意見を述べます。

「農民、農民組織や市民社会の参加と関与」について本当に真剣に求めるのであれば、本来は、我々の「最初からの関与」を求めるべきだった。

しかし、我々の全員が知っているように、これはもはや可能ではない。

その前提の上で、本当に農民や農民組織、市民社会組織の真なる関与（involvement）と参加（engagement）を望むのであれば、重要であると思われる点について述べる。

これらの主体が明確に意志決定に関わることが出来ることを、制度として保証することである。

以上を踏まえた上で、次の2点も「参加と関与」においての大前提となる。

- (1) 本事業に関わるすべての資料の共有。
- (2) 資料に基づく、多様な市民社会組織、全ての関心を寄せる関係者からのコメントと貢献の要請。
- (3) そのための十分な時間。

以上を鑑みると、これまでのプロセス、そして問題化した後も、「マスタープランのドラフトは最終ドラフトのみ共有」とされていることは到底受け入れられない。

事業の問題点については、別に声明文を準備しているためそちらに譲る。

Justiça Ambiental

2013年4月15日、マポート